

Bリーグ「アルバルク東京」 田中大貴選手

感謝の思い

忘れない

Bリーグに所属するプロバスケットボールチーム「アルバルク東京」に所属し、東京オリンピックでキャプテンを務めた田中大貴選手に、こども記者の質問に対するビデオレターをいただきました。社は文京区にあります。

自信を持ってプレー

家族でアルバルク東京のファンなので、田中大貴選手が

質問に答えてくれてうれしかったです。私もミニバスケットボールをやっていますが、練習試合でも緊張してしまうことが多いので、田中選手の緊張のほぐし方は参考にになりました。自信を持ってプレーするために、まずは練習を頑張ってお力をつけていきたいです。(小5/林莉央)

オンとオフ切り替え

オリンピックにも出た、実力のあるすごい選手が、普段はどうやって息抜きをしているのか質問すると、「オンと

オフの切り替えが大事」「時間のある時などは温泉などに行く」と答えてくれました。私も温泉が好きなので、やっぱり温泉にいくとリフレッシュできるんだな、と思いました。オンとオフの切り替えが集中力につながっていると感じたので私も参考にしたいと思います。

(中1/馬場和花奈)

家族や先生、仲間へ

田中大貴選手の座右の銘は「ありがとう」です。「好きなバスケットボールをやれるのは家族や今まで指導してくださった先生、チームメイトのおかげで自分一人の力ではなく、このような人たちの力があってこそ今の自分があるからです」と話していました。日ごろから感謝の気持ちを忘れずに過ごしたいと思いました。(小6/田中杏依)



こども記者の質問に答える田中大貴選手(左)東京大会には男子バスケットボールチームの主将として出場した田中選手 ©アルバルク東京

スポーツを「楽しむ」

ドイツ文化講座

子ども記者は10月30日、波多腰克晃さんのドイツ文化講座取材しました。

「地域愛」が支え

主に東京オリンピック開催までの流れやドイツ国民とスポーツのつながりについての話だった。オリンピック招致活動にはたくさんの方が関わり、貢献したことを知った。ドイツに市民自身がスポーツを支えるという考え方が根付いているのは「地域愛」だそうだ。(中3/大迫環)

チームの一員

波多腰先生は、ドイツのスポーツへの関わり方について紹介してくれました。ドイツでは住んでいる地域のクラブチームを応援し、自分はチームの一員と考えるそうです。運営にはお金がかかるため、企業からの支援を50:1というルール

を受けて、自分たちで物事を決められるようにしています。(小5/ゆき)

町の人たち一丸

ドイツではスポーツを「お金のため」ではなく、「楽しむため」に行っていることを知りました。日本は企業が中心となりスポーツクラブを運営していることが多いですが、ドイツでは、町の人々が中心となって運営しているのです。日本もドイツのように町の人たちが一丸となりチームを支えていく制度を導入した方が良いと感じました。(小6/大迫輝)

自分ができていること

ドイツでスポーツ観戦が人気なのは、地元愛・地域愛が強いからだそうです。講義で紹介されたジョン・F・ケネディの米大統領就任演説での言葉「祖国が君に何をしてくれるかと問う

な、祖国に君が何をなしえるかと問え」を聞き、所属する学校やチーム、地域、国のために自分は何ができるのかを考えていこうと思いました。(小5/大場皓翔)

サッカーと馬術

東京オリンピックは当たり前に関ざりされたと思っていました。でも、2016年のオリンピックでは落選して、再挑戦でつかんだものでした。ドイツではサッカーと馬術が人気で、野球は人気がないそうです。運動会も日本のような楽しいイベントではなく、全国

実話が映画に

ドイツで生まれたスポーツはありません。サッカーが人気なのは、それまで規則的な体操みたいな運動をやらされていたところにイギリスからサッカーが伝わり、とても楽しいスポーツだと知ったからです。「コッホ先生と僕らの革命」という実話の映画になっているということなんです。今度、見てみたいです。(小4/松本龍聖)

義足のジャンパー

義足のジャンパーと呼ばれるドイツのマルクス・レーム選手の話が心に残りました。今年8月22日、自身の世界記録を更新したそうです。学校の体育の授業で、馬術や自転車競技があるそうで、校庭がとても広いのではないかと想像しました。ドイツのスポーツについてもっと調べたいです。(小5/松本匠平)

編集後記

文京区はさまざまな形で東京2020大会と関わりました。「文京区オリンピック・パラリンピックこども新聞」は、2017(平成29)年10月の創刊以来、70を超える取材先に取材を行いました。

こども新聞記者ならではの質問には新たな気付きや発見があり、その思いを大切にしながら、こども記者や編集サポーターの皆さんと一緒にこども新聞を作成してきました。

今回が最終号となりますが、取材での学びが、こどもたちのレガシー

レーム選手にパラリンピックのマスコットを提供した成沢広修区長(左)
—©長田洋平/アフロスポーツ



となることを願っています。最後まで読んでいただきありがとうございます。